すじ雲
令和６年６月●日
発行：矢沢宰記念事業実行委員会

第三十回 矢沢宰 生命の詩の集い

矢沢宰賞 受賞者発表

最優秀賞は 蓮田市 舘野 絢香 さん

「気持ちをカタチに 思いを届ける」

最優秀賞
舘野　絢香さん

第三十回の節目となる矢沢宰賞の表彰式が去る令和五年十一月二十六日、見附市文化ホール「アルカディア」小ホールにおいて開催された。四年振りの対面での開催で、主催者の矢沢宰記念事業実行委員会のメンバーも喜びと同時に準備に幾分の戸惑いもあった。

会場のエントランスには、ギャラリーみつけの立川副館長制作の大きなオサムちゃん人形が飾られ、村上徹氏の四コママンガのパネルと共に参加者を迎えた。受賞者たちも立体となって現れたオサムちゃんを興味深く見ていた。小ホールホワイエでは、過去の最優秀受賞作全作品の掲示、宰自筆の詩ノートなども展示された。

今回の応募作品は、全国十八都府県から千二百四十六編が寄せられた。詩人八木忠栄氏が独りで選に当り、最優秀賞一編、奨励賞四編、入選三十五編が選出された。残念ながら体調不良のため当日八木氏は出席されなかった。

アルカディア少年少女合唱団のミニコンサートで開式され、来賓の稲田市長、県特支学校福田会長の祝辞の後、表彰式が行われた。実行委員長により賞状・賞品が贈呈され、稲田市長・渡邊教育長から全員に金メダルが授与された。

最優秀賞・奨励賞作品朗読では、最優秀賞の舘野絢香さん、奨励賞一席今井楓子さん、四席土田舞斗さんが自分で自作を朗読した。一言一言を大切に心を込めて発表していた。

最後に第三十回の記念として講演会が開催された。講師の日沖七瀬氏はパワーポイントの画像を使いながら解り易い語り口で参加者の心に訴えかけていた。

久し振りの対面での表彰式の開催ということもあって、会場には和やかな中にも華やいだ雰囲気が流れていた。

オープニングはアルカディア少年少女合唱団

記念講演は日沖七瀬氏「心に旅をさせよう」

表彰式のオープニングとして、アルカディア少年少女合唱団によるミニコンサートが行われた。お馴染みの宰作詞による「一本のすじ雲」の他、「もしも歌がなかったら」など四曲が、伸びやかな美しい歌声で歌われた。久し振りにオープニングで響く歌声に、会場も一気に和やかな雰囲気になった。

受賞式後の記念講演として、NHKのメディア総局勤務の日沖七瀬氏より「心に旅をさせよう」の演題で講演を戴いた。氏は第十回の矢沢宰賞で「韓国地下鉄放火事件の悲劇」の作品で最優秀賞・かいばみ賞を受賞されている。当時長岡市立青葉台中学校の二年生であったが、既にジャーナリスティックな視点を感じされる素晴しい作品であった。

講演では、氏は現在の仕事を踏まえ、子ども達が自分を大切にしながら幸せに生きるにはどうすればよいかを語った。宰の詩を引きながら、宰のように心を外に開き、心に旅をさせようと訴えた。易しい言葉でわかりやすい語り口の講演は、参加者たちの心にも間違いなく届いていた。

第30回矢沢宰賞受賞者

最優秀賞	舘野　絢香	気持ちをカタチに　思いを届ける	蓮田市立黒浜中学校３年
奨励賞	今井　楓子	つたえよう	前橋市立箱田中学校２年
	野田　　惺	でこぼこの私へ	大阪府立中央聴覚支援学校３年
	山田　咲希	自然と人間	前橋市立箱田中学校２年
	土田　舞斗	本	十日町市立中条中学校１年
入選	アサドーラヒ　マハブビアン　タニア	別れ	前橋市立箱田中学校２年
	荒木　星奈	一筋の光	前橋市立箱田中学校２年
	池田　優子	思い出の修学旅行	蓮田市立黒浜中学校３年
	大井　美糸	たんぽぽ	大月市立大月東中学校３年
	岡﨑　心春	神田祭	印西市立船穂小学校５年
	岡野　琴音	笑顔	前橋市立箱田中学校２年
	笠倉　望夢	うちの犬はサスケ様だ	桜川市立岩瀬西中学校１年
	川端　愛莉	バス通学	熊本県立盲学校高等部１年
	神戸　天飛	虹	横浜市
	木村　夏蓮	祖父のぬくもり	前橋市立箱田中学校２年
	坂本　梨紗	泳ぐ鮪	文京区立茗台中学校３年
	佐藤　拓弥	輝けない僕	前橋市立箱田中学校２年
	清水　花穂	風りん	見附市立名木野小学校４年
	白石　真子	人生	新潟県立加茂農林高等学校２年
	菅野　剛成	今と昔	前橋市立箱田中学校２年
	鈴木　大賀	不思議ながびょう	牛久市立牛久第三中学校１年
	鈴木　佑奈	ちいさなうちゅう	松戸市立旭町中学校３年
	髙橋　京雅	ママずるい	見附市立名木野小学校５年
	田中　桃華	アメリカ研修	熊本県立盲学校高等部３年
	登坂　南々帆	僕の旅	前橋市立箱田中学校２年
	富田　　楓	みかたをかえて	前橋市立箱田中学校２年
	中林　夏野	私の夏	前橋市立箱田中学校２年
	野上　圭一朗	宝物	見附市立名木野小学校５年
	長谷川　結優	「たんじょうび」	見附市立今町小学校５年
	林　　亜美	夢	蓮田市立黒浜中学校２年
	増渕　志音	おれはボール	桜川市立岩瀬西中学校１年
	松村　拓実	命のともしび	蓮田市立黒浜中学校２年
	丸山　琉生	消しゴム	蓮田市立黒浜中学校１年
	諸遊　　樹	夏に恋する	蓮田市立黒浜中学校３年
	八木　悠仁	雨	前橋市立箱田中学校２年
	山﨑　紗良	夏祭りの色	前橋市立箱田中学校２年
	吉田　祐太	不安	長崎県立希望が丘高等特別支援学校３年
	渡邊　風羽	いろいろな橋	見附市立今町小学校５年
	渡部　陽菜	空	成田市立中台中学校２年

※ 入選は五十音順

第30回 矢沢宰賞最優秀賞

気持ちをカタチに　思いを届ける

舘野　絢香（蓮田市立黒浜中学校３年）

鉛筆を持ち、真っ白な紙に無数の線を描く
筆を持ち、色とりどりのパレットから色を
得る
思いのままに筆を走らせる

誰にも邪魔されずにカタチにできる狭くて
広い場所
この一瞬に時間をかける

これが私の幸せのカタチ

他の誰にも分からない私の感情を表す
描いた者だけが得られる満足感と達成感
画用紙を見ればまるで色が舞を舞っている
ようだ

真っ白な紙を自由に私色に染める

それが私の楽しみのカタチ

色を合わせれば合わせるほど黒に近づいて
いく
私の気持ちも同じだ
気持ちを詰め込めば詰め込むほど負の感情
が生まれる

その気持ちをカタチにする

何とすばらしいことだろう
自由に表現できるということは
一人の人生をいろどる一枚の画用紙

この一枚一枚が未来の私へ思いを届ける

第三十回 矢沢宰賞の選考を終えて

八木　忠栄

新型コロナは日本だけでなく、世界中の人々が重い影響を受けました。さまざまな行動や催しものに厳しい制限が加えられて、思うように動けなかった点も多々あったことでしょう。みなさんも少なからず、その影響を受けたことと思います。その後コロナ禍は減って、私たちに対する行動の制限はゆるくなりつつありますが、まだ油断はできません。

平成六年から、毎年実施されてきた「矢沢宰賞」は休むことなく実現しましたけれど、その授賞式「矢沢宰 生命の詩の集い」は残念ながら、昨年まで三年連続で開催できませんでした。今年は節目の三十回目で、開催です。

「だれにもまねのできない、あなただけの心のつぶやき、心のたかまり、それをあなたの言葉で書いてみませんか。」と詩の募集にありました。その通りなのです。各学校から多くの詩のご応募をいただきました。学校での生活や夏休みの日々に汗している姿が、詩の上手下手に関係なく伝わってきます。周囲には言葉が増えているけれど、「あなたの言葉」ということを深く考えてみてください。

毎年、会場で入選者のみなさんと初めてお会いして、作品と作者の顔が一致するときは、選者である私にとって、スリリングな瞬間です。今年の「生命の詩の集い」に、私は体調が悪くて出席できませんが、作品に付した選評を読んでください。選評はみなさんが詩を書くときのエネルギーに負けていないつもりです。自由な時間は、今後少しずつ増えてくるでしょう。勉強や遊びに負けず、詩作にも挑みましょう。

作品のすべてに目を通して、最終的に四十編にしぼりました。選評は作品それぞれに付してあります。入選の喜びをふくらませ、選にもれた悔しさを倍のエネルギーにして、詩を愛し、今後も書きつづけてください。

―「矢沢宰 生命の詩の集い」より転載―

まよい

さわると
手のきれるようないとを
心のなかにはって
まよいをくいとめたい

（16歳）

Hesitation

I want to set up
a very tight thread
in my mind
against my hesitation.

（Aged 16）

― 矢沢宰詩英訳プロジェクト会議　訳 ―

オサムちゃんみぃつけた！展 ギャラリーみつけで開催される

令和六年一月五日より二十八日までの会期で、ギャラリーみつけにおいて「オサムちゃんみぃつけた！展」が開催された。ギャラリーみつけでは、過去二回宰に関わる企画が実施されている。令和三年度の「矢沢宰とこどもたち」展では、地元小学生児童やアーティストたちとの宰の結びつきをとらえ、令和四年度の「矢沢宰詩画展」では、詩人として評価されている宰の直観的なデッサン力を新たに見い出し、画と詩との関わりを小沼学芸員が探求した素晴しい展覧であった。

此度の企画では、令和二年から「広報みつけ」に村上徹氏作で連載されている「オサムちゃんみぃつけた！」のキャラクターがそのテーマとなっている。村上氏の造りあげたキャラクターに触発されて、ギャラリーみつけ副館長の立川厚生氏が立体のフィギュアで宰を制作した。

四コマ漫画で既に存在感を大きくしていたオサムちゃんが、宰自身の作った詩や日記の状況の中で立ち上り、そしてその表情を表わす。「あなたの手は」、「少年」、「おれの中に」などの宰の詩や日記の記述、村上氏の漫画などをベースにしながらも、独自な感覚で宰の表情を切り取り、二十三体ものフィギュアで会場を一杯に飾った。一体ずつにキャプションも添付され、そのイメージがより確実なものになっていた。会場を訪れた人たちも目を輝かせて見て廻っていた。

第十一回『こぶし忌』
上北谷小児童と一緒に開催

三月十一日(月)、例年のように墓詩碑前で献辞、献花がなされ、上北谷小三、四、五年生より十四句の献句、六年生小林菜奈未さんの献詩が自身によって朗読された。一般よりの献句は七十二句だった。

その後、上北谷小学校において、五年振りに交流会が開催された。学年毎に宰の詩の中で好きな詩の唱和。「オサムちゃん　みぃつけた！」を広報みつけに連載している村上徹氏のお話。そして「一本のすじ雲」と、アルカディア合唱団の大塚美正さんが作曲し、船橋洋介先生が補作、伴奏譜をつけた「風が」が合唱された。

献詩

儚花

六年　小林　菜奈未

花は　美しい
つぼみから　さいて
きたなく　かれる
けど　こぶしはちがう
つぼみから　さいて
儚く　散っていく
きれいな姿のまんまで

こぶしは散っていく
どんなに　ほめても
どんなに　かわいがっても
いうことを　聞かずに
散っていく
けど　こぶしは　来年もさく
生まれ変わったように
純白色の　花弁を　みせながら

沢村澄子展　宙（そら）と書と宰の詩を書いた作品も展示

沢村澄子展が三月十五日から三十一日までギャラリーみつけで開催された。沢村氏は新潟大学特設書道科卒業。国内外でのワークショップやパフォーマンスを行ない、二十二年の「宮沢賢治―沢村澄子　現象的書展」により、令和四年度（第十三回）芸術選奨美術部門　文部科学大臣賞を受賞されている。

かねてより依頼の見附市での展覧会開催の打ち合わせで来館された折、丁度「オサムちゃんみぃつけた！展」が開催中。それを鑑賞され、若い頃宰の詩集を読んだことがあると話され、たまたま販売されていた思潮社版の詩集を購入して帰られた。

二月に入って突然矢沢宰の詩を書いているとの連絡があり、三月に入って作品が搬入された。「身土不二」「廻」「山川草木」などの大作と共に、宰の詩を書いたものも運び込まれた。

ギャラリートークで沢村氏自身も、自分は命がけで作品に向い、共感しないものは書かないと語られていた。宰の詩を書いた大作は、新聞紙を継ぎ合わせた1m61cm×18m90cmの紙に墨で「空への告白」「美しいもの」「自分は」の三編の詩を書いたもの。自由奔放に何の衒いもなく書き進めたように見えながら、宰の詩に表された感情に強い共感を抱き筆を走らせた様子が感じられ強く心を打った。

宰ゆかりの

●新潟日報の窓欄に・・・

「矢沢宰詩画展」においでになった長岡市山岸則子さんが投書された文が掲載されていました。十代の時に宰に出会い折々に読み返されていたそうです。絵の才能にも驚かされ感激したと寄せられていました。

●「オサムちゃんみぃつけた！展」では・・

①熱田町の佐野保雄さんは、三条結核病院に入院した際、宰を見掛けたそうです。自分は大部屋だったが、宰は病が重く個室だった、そして言われている通り部屋の戸を開けていた、と話していかれました。

②加坪川町の田中小夜子さんは、以前山谷医院に勤めていて、河野の矢沢家に先生に附いて往診に行ったことがあったそうです。その時、宰のお母さんが沢山のノートを持って来られ見て欲しいと言われたが、先生はとりあえず大切に保管するように勧められた。後年、詩集などが世に出た時、あの時のノートだったんだとその頃のことを思い出した、と語ってゆかれました。

●「第十一回こぶし忌」で・・・

久し振りに上北谷小で行われた交流会の催しで、児童たちによって「風が」が歌われました。この曲は宰の詩にアルカディア合唱団の大塚美正氏が作曲し、それに船橋洋介先生が補作、ピアノ伴奏譜を附け完成したものでとても優しく、美しい曲です。大塚氏が歌って貰った礼状を送ると、上北谷小では秋のフェスティバルで全校で毎年合唱している旨、藤ノ木小学校長からご連絡がありました。

●第三十回の矢沢宰賞表彰式で・・・

最優秀賞を受賞された舘野さんが、表彰式の当日手紙を手渡してくれました。自分の作品が最優秀賞に選ばれたことで、改めて宰の人生について学び、宰の心情について考えた。そしてこのことが自分の人生の糧になることを確信した、という素晴しい手紙でした。

編集後記

久し振りに行事を対面で行なうことができた。やはり皆さんと顔を合わせ、言葉を交わし合うのは楽しいことだ。上北谷小の児童たち、アルカディア少年少女合唱団の皆さん、そして受賞者の皆様方、どうもありがとうございました。